



丹後地域 リハビリ通信

～うさぎのブランコ～

第21号

編集／発行

丹後地域リハビリテーション支援センター
(公益財団法人 丹後中央病院リハビリテーション科内)
〒627-8555 京丹後市峰山町杉谷158-1

TEL 0772-62-8301 FAX 0772-62-8302

e-mail tango-rehabili-shien@tangohp.com

http://www.tangohp.com/tangoshien.html

ホームページよりPDF形式でご覧いただく
ことができます

2015年度事業報告

今年度すべての事業が無事終了しました。ご協力いただきありがとうございました。

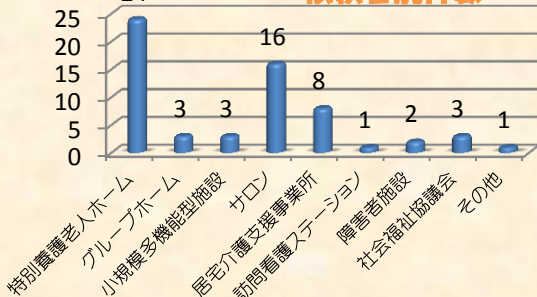
訪問相談事業 61件

相談内容別件数

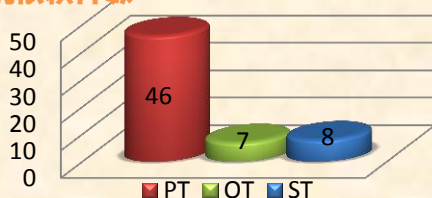
(H28.3.15現在)



依頼者別件数



職種別依頼件数



地域包括センター等に対する
助言・相談

41件

看護職・介護職スタッフアップ研修

平成27年7月～2月 第3金曜日 全8回開催

参加者延べ522名 全8回参加：20名

「日常業務にプラスαのリハビリ」

事例検討会

第1回 平成27年7月31日開催 参加者21名

「退院後の摂食嚥下リハビリを考える」

第2回 平成27年8月2日開催 参加者33名

「移乗」

第3回 平成27年12月5日開催 参加者32名

「地域リハビリテーションの連携再考
～三方よしから学ぶ地域連携」

第4回 平成28年2月2日開催 参加者33名

「障害分野のリハビリテーションと連携を考え」

実践交流会

平成28年3月3日開催 参加者199名

地域包括ケア実践交流会 お気軽サミットin丹後2016
「安心して暮らすために、知って、つながり、支え合おう」

情報提供

ホームページの更新

広報誌うさぎのブランコ

19号(8月)、20号(10月)、21号(3月)発行

第3回 事例検討会開催の報告

「地域リハビリテーションの連携再考～三方よしから学ぶ地域連携」

日時 平成27年12月5日(土) 午後1時～4時30分

講演 「地域包括ケアの完成を目指して～三方よし研究会の試み～」

講師:小串 輝男 氏(医療法人社団 小串医院 理事長)

実践報告 ○急性期病院より

報告者:石飛 千尋 氏(京都府立医科大学附属北部医療センター 理学療法士)

砂原 洋子 氏(京都府立医科大学附属北部医療センター 看護師)

○回復期リハビリテーション病棟より

報告者:川崎 祐介 氏(公益財団法人 丹後中央病院 社会福祉士)

小北 典子 氏(公益財団法人 丹後中央病院 作業療法士)

○外来・訪問リハビリより

報告者:小西 隆博 氏(与謝野町立国民健康保険診療所 理学療法士)

ミニ講座 「介護保険改正の目的とねらい」

講師:松本 善則 氏(亀岡地域包括支援センター長 主任介護支援専門員)

介護支援専門員、薬剤師、セラピスト、行政の担当者など、多職種**32名**の方に参加いただきました。

実践報告では、管内の急性期から、回復期(慢性期)、そして在宅におけるそれぞれの仕組みや組織、そして連携の実際や、現状について知ることができ、一人の患者が急性期から在宅に向かっていく流れをイメージすることができました。

講演では、滋賀県東近江市で医療・介護・保健福祉の連携ネットワーク「三方よし研究会」を立ち上げ、その後の活動を積極的にされている小串医師より、その活動の状況を含め、地域包括ケア、多職種連携のポイントについて学ぶことができました。

ミニ講座では、松本氏から4月の介護保険改正によるリハビリテーションのポイントについて、活動と参加に焦点をあてたりハビリテーションが推進されていることを説明していただきました。

グループワークでは、架空の困難事例の連携について参加者が4グループに分かれ検討しました。それぞれの立場から本ケースにかかわる事を想定し、課題を出しあった上で、自分の専門性を活かし何ができるのかという視点で支援方策の検討を行いました。また、多職種で支援していくことについて、お互いにできることを情報



講師:小串輝男先生

平成19年の医療法改正に伴い、機能分化連携を推進、切れ目のない医療提供体制の構築が基本施策とされる中、地域連携完結型医療を目指すため、ネットワーク研究会、現在の「三方よし研究会」を立ち上げた。

患者のケアを積極的に連携したいという関係職種の思いが強く、患者さん第一を原則としながら相互の信頼関係を構築した。特に「顔の見える関係づくり」を大切にしたい。現在、三方よし研究会は毎回参加者が100名～150名、時間厳守とし、事例報告等を含め、活発な意見交換が行われている。車座設定として、お互いの顔がみえ、意見交換しやすい場としている。

地域包括ケア＝町づくりを目指し今後も取り組みたい。

第4回 事例検討会開催の報告

「障害分野のリハビリテーションと連携を考える」

日時 平成28年2月2日(火) 午後1時30分～4時30分

現状報告 ○丹後圏域障害者総合相談支援センター

報告者: 崎山 貴史 氏

(ゼネラルマネージャー)

○丹後地域リハビリテーション支援センター

報告者: 東 小百合(コーディネーター)

実践報告 ○京都府立与謝の海支援学校

報告者: 安川 たまみ 氏(教諭)

○社会福祉法人よさのうみ福祉会

障害児(者)多機能型生活支援センター ろむ

報告者: 河邊 晴美 氏(主任)

○社会福祉法人丹後大宮福祉会 障害者支援施設 あゆみが丘学園

報告者: 松森 幸美 氏(看護師)



医療機関及び福祉事業所関係者、障害者生活支援センター相談員、支援学校教員、市町及び保健所

保健・福祉担当者など**35名**の方に参加いただきました。

今回は、支援学校卒業後の身体障害児・者のリハビリテーションをテーマに、支援学校と施設の連携、施設と施設の連携、リハビリテーションの継続や障害者の高齢化などの課題について、各機関からの報告をもとに現状を把握し、今後の方向性について検討する機会として開催しました。

現状報告・実践報告では、障害分野におけるリハビリの取組や実際について参加者全員で共有することができました。

座談会では、それぞれの現場の現状や課題、悩みについて意見交流できました。障害分野においても、日頃関わるスタッフがリハビリの視点を持つことの大切さを共有できました。

参加者の感想より

- リハビリのイメージが変わった。専門の方だけが主になってできるものだと思っていた。日々の生活の中にリハビリを取り入れることが大切だということが学べてよかった。
- 他の事業所などの実践を聞かせて頂き大変シゲキになりました。
- 「リハビリ」が特別なものではなく、生活の自立を促すための方法の一つであり、セラピストだけでなく支援者全員が共通の支援の視点をもつことが必要だと思いました。
- 現場で実践に当たっている方のご意見がたくさうかがえてよかったです。各現場での悩みなどもきけ「リハビリ」という言葉の広い意味を再確認しました。専門家に関わって頂く部分、他職種が業務の中でプラスαしていく部分、家族さんが生活の中で行っていく部分を意識しながら、「楽しい」「うれしい」「ワクワク」を大切にしていかなければいけないと思いました。
- それぞれの立場から“できること”を持ち寄って工夫して、不足していることは資源を作っていくこ

看護職・介護職ステップアップ研修（第5～8回）開催の報告

テーマ「日常業務にプラスαのリハビリを」

第5回

平成27年11月20日(金)開催 「お風呂と着替え」

講師:岡野光朗氏(京丹後市やさか老人保健施設ふくじゅ 理学療法士)

木下和泉氏(京丹後市やさか老人保健施設ふくじゅ 作業療法士)

71名の方にご参加頂きました。前半の「着替え」の講義では、着替える際の姿勢の安定性についてや着替えにつながる動きを取り入れた体操、着替えにつかう福祉用具を紹介頂きました。後半の「お風呂」では、重心と支持基底面を意識しながらの床からの立ち上がりを全員で体験した

第6回

平成27年12月18日(金)開催 「しゃべること+認知症」

講師:平野清美氏(公益財団法人 丹後中央病院 言語聴覚士)

59名の方にご参加頂きました。しゃべることの障害である「失語症」と「構音障害」の症状と具体的対応について、また、認知症の症状と具体的対応について講義頂きました。

第7回

平成28年1月15日(金)開催 「レクリエーション」

講師:松本健史氏

(丹後福祉応援団 生活リハビリ道場 理学療法士)

51名の方にご参加頂きました。前半はレクリエーション大切にしたい視点として前かがみ座位姿勢について講義頂きました。後半はグループにわかれ全員でレクリエーションを体験しました。

第8回

平成28年2月19日(金)開催 「住環境と福祉用具」

講師:平岡有香氏(公益財団法人 丹後中央病院 作業療法士)

53名の方にご参加頂きました。住宅改修や福祉用具の導入について講義頂きました。「一律した整備の方法はない」ということを、事例を通して示していただきました。



全8回参加された20名の方に、
修了証を授与
しました。



多くの方にご参加頂き、ありがとうございました。